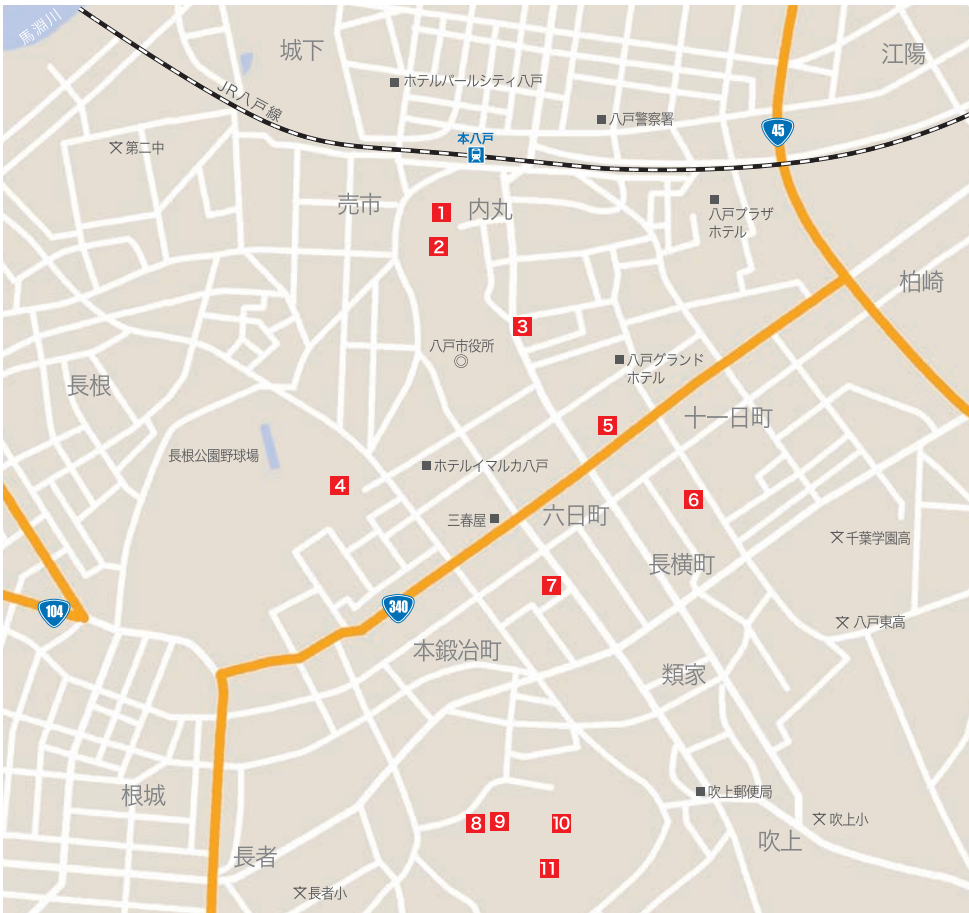


八戸城周辺



内に安置され、さらに現在の来迎寺に移されました。鎌倉時代の作とも、関東地方にあったものともいわれている端正な仏像です。

天聖寺 7

浄土宗のお寺で承応年間(1652~1654)の建立とされ、往時は根城にあり、涼雲山善道寺と称し、のち現在地に移転して天聖寺を名乗ったという。寛文4年(1664)八戸藩が誕生すると、領内「近回り五カ寺」の一つに数えられ、燈明料五駄かを与えられた。元禄年間(1688~1703)には鐘楼などの諸堂が整備され、城下の町寺として極楽往生を願う人びとの厚い崇敬を集めました。糠部三十三観音は寛保三年(1743)、天聖寺の住職によって定められました。

【昌益思想発祥の地】

安藤昌益は江戸時代中期の医師で、武士が農民を支配する封建社会を激しく批判した思想家として知られています。延享元年(1744)、八戸にやって来た昌益は、ここで初めて自らの思想を語る講演を行いました。

南宗寺 8

南宗寺は、八戸藩初代南部直房が父利直の菩提を弔うため、寛文6年(1666)に類家に建てられましたが、寛文11年に現在地に移築されました。寺の名前は、利直の法名「南宗院殿月溪晴公大居士」に由来、山号は月溪山。八戸南部家の菩提寺として現在に至っています。



南宗寺山門は元文4年(1739)に建立されたもので切妻、四脚門、和様三斗組、江戸時代中期に建てられた寺院山門建築として貴重な存在で平成3年に青森県重宝に指定されています。また、境内背後にある八戸南部家墓所は、昭和30年に青森県指定史跡に指定されています。

八戸南部家墓所 9

八戸南部家墓所は、南宗寺東側の長者山中腹にあります。墓所は、南宗寺が現在地に移った翌年の延宝元年(1673)に建造され、歴代藩主の郭とその家族の郭の2区画に分かれています。藩主の郭には、初代藩主直房から11代麻子(大正2年没)までの歴代藩主の五輪塔や石燈籠などが整然と並んでおり、変形の五輪塔15基、角柱の石塔20数基や石燈籠・洗鉢及び経塚もあります。



長者山新羅神社 10

延宝6年(1678)八戸藩2代藩主の南部直政が藩主の守護、領内の五穀豊穡・万民安穩、無病息災の祈願所として社を建て、三社堂又は虚空蔵堂と称されたのが始まりとされています。その後、明治の神仏分離令により三社堂は新羅神社となります。本殿・拜殿とも細部の彫刻などに江戸時代の特徴が良く表現されており、平成3年に県重宝に指定されました。



大慈寺(糠塚) 11

松館の大慈寺の宿寺として延宝年間(1670年代)に創建されたといわれます。山門は天保2年(1831)に建立されたもので、八戸市内に残る数少ない楼門建築の1つです。八戸市指定有形文化財に指定されています。大慈寺山門左手の経蔵もまた、八戸市指定有形文化財に指定されています。

八戸城跡(三八城公園) 1

寛文4年(1664)、盛岡藩2代目藩主南部重直が跡継ぎを決めずに急死したため、その遺領10万石は盛岡8万石と八戸2万石に分封されました。八戸は南部直房の所領となり八戸藩が成立。明治まで9代続きました。居城はかつての根城跡ではなく三八城山にあった館を修築して八戸城とし、家臣団の編成と城下町の整備に取り組みました。



明治4年(1871)、廃藩置県とともに八戸城は廃城。現在の本丸跡は三八城公園として、市民の憩いの場になっています。

三八城神社 2

八戸藩2代南部直政が元禄2年(1689)八戸城内に新羅三郎義光を祭る新羅宮を勧請したのが始まりと伝えられています。新羅宮は、明治維新後、太祖南部光行、藩祖南部直房を合祀し、三八城神社と改称しました。



社宝として、南部直政が寄進したと伝えられる具足と太刀、八戸南部家11代南部麻子氏から寄進された旧八戸藩主軍装用具があり、いずれも八戸市指定有形文化財に指定されています。

八戸城角御殿表門 3

八戸市役所前にある「南部会館」の名で親しまれている施設の門。八戸藩政時代、後に御番頭となる煙山氏が寛政年間に創建した棟門でした。昭和53年の倒壊と翌年から行われた修理の際、棟札3枚(寛政9年(1797)のものが最古)と毘沙門天像が発見されました。像は、八戸市博物館で展示されています。

更上閣 4

明治から昭和初期にかけて、呉服商や醤油の製造販売、銀行などを設立した東北を代表する実業家、泉山家の邸宅として建てられたものです。



住宅に、墓股や虹梁形の頭貫など、社寺建築の要素を随所に取り入れた近代和風建築として、平成15年に国の登録有形文化財に指定されました。現在は、八戸市の集会場施設として保存活用されています。

河内屋橋本合名会社 5

造り酒屋河内屋は、大正13年(1924)の八戸大火に罹災したため、6代目橋本八右衛門が、第一生命保険相互会社営繕課長の安藤安夫に設計を依頼し、仮事務所としてこの建物を建築しました。木造2階建、鉄板葺の切妻屋根を見せ、1階中央部にショーウィンドーを設け、正面庇欄間にスタンドグラスをはめるなど斬新な意匠になっています。現在は、郷土料理店として営業しています。



来迎寺 6

浄土宗の寺院で、糠部三十三観音の第十番札所でもあります。弘安三年(1280)に創建したと伝えられ、元禄五年(1692)、現在地へ移りました。八戸藩政では、格式の高い「領内十カ寺」の一つに数えられています。



【市指定文化財：地蔵菩薩像】

八戸藩主直房公が八戸に移る際、母方の郷里の中里村(現岩手県岩泉町)で信仰されていた仏像を湊町上ノ山に移し、元禄15年(1702)に豪商西町屋石橋徳右衛門の屋敷